

プログラム概要

本講座は、劇場・文化施設をはじめ、さまざまな場で行われる公演やワークショップなど、舞台公演やパフォーミングアーツの場をひらきたいと考えている企画制作者のための講座シリーズです。障害のあるつくり手や鑑賞者をふくめ、多様な人たちに活動への参加をどのようにひらいてゆけるのか。障害のあるつくり手、舞台芸術関係者、情報保障やアクセシビリティの専門家、実践者を招き、オンラインのトークシリーズやオフラインの合宿型研修を通じて、学び、ともに考えます。

プログラム名	内容	受講料/定員
オンライン講座 Zoom 2025/9・10	全4回の講座を通じて、障害当事者との創作現場や鑑賞にとって必要な環境、配慮、現状や歴史について学ぶ基礎講座講座はオンラインで開催し、全国どこからでも受講することができます。 <u>締め切り:各講座の前日</u>	通し券 1,500円 1回券 500円 定員 なし
ワークショップ講座 東京 2026/1/24(土)~25(日) 奈良 2026/2/21(土)~22(日)	全オンライン講座の事前受講後、関心に応じて選べる1泊2日の合宿形式講座を実施します。作品上映やワークショップ、視察などを通じて、障害のある人との表現や鑑賞について専門家や当事者と共に考え、対話を重ねます。座談会や感想シェアも行い、学びを現場に活かすことを目指します。 <u>締め切り:11/28(金)</u>	一般 15,000円 U29 12,000円 ※宿泊・交通費補助あり (上限30,000円) 定員 各回15名程度
<u>ワークショップ講座受講者限定!</u> 特別視察プログラム 愛知 2025/10/13(月・祝)	「アクセシビリティコーディネーターともに巡る、国際芸術祭「あいち2025」の演目のアクセシビリティ。」「ワークショップ研修講座」参加者の希望者を対象に、国際芸術祭「あいち2025」パフォーミングアーツ部門の鑑賞サポート付き公演の視察研修を実施予定です。 <u>締め切り:9/15(月・祝)</u>	3,500円 定員 10名程度

企画監修



写真撮影: Junpei iwamoto
文
NPO法人DANCE BOX 事務局長
「こんにちは、共生社会」(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)
プロジェクト・チーフ

神戸・新長田の劇場「ArtTheaterdB KOBE」を拠点に、コンテンポラリーダンスのアーティストの育成事業や、障がいをもつ人や国籍の違う人・地域の人とつくる事業を展開。ダンスと身体、表現と社会、人と地域と劇場が出会い拡張する現場を考え続けている。障害者との活動は、「循環プロジェクト」(~2012)を経て、現在はダンスカンパニー「Mi-Mi-Bi」「やさしいコンテンポラリーダンスクラス」にも伴走中。



長津 結一郎
九州大学大学院 芸術工学研究院准教授

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走/伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行なっているほか、ワークショップに関する教育、演劇・ダンスのマネジメントやプロデュースにも関わる。著書に『舞台の上の障害者:境界から生まれる表現』(九州大学出版会、2018年)

公式サイト・申し込み

https://theatreforall.net/stage_for_all

お問い合わせ: tfa@precog-jp.net

電話番号: 03-3528-9713 FAX番号: 03-3528-9720

文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」
主催: 文化庁、株式会社precog 企画・制作運営: 株式会社precog
広報: THEATRE for ALL

プログラムの最新情報や
申し込み方法は
公式サイトを CHECK



STAGE for ALL

「多様なつくり手と創作すること」と

「多様な鑑賞者に作品を届けること」を考える実践講座

STAGE for ALLは、「障害と創作や鑑賞の場づくり」について考えながら実践する企画・制作者のための連続講座です。オンライン講座とワークショップ講座を通じて、劇場職員、パフォーミングアーツの企画者やアーティストなど、さまざまな現場の実践者同士で集い、それぞれに活かせる視点や工夫を共有し、ともに考えていきませんか?

オンライン講座

2025/9・10

ワークショップ講座

東京 | 2026/1 奈良 | 2026/2

※3/12(木)2コース合同のオンライン成果発表会実施予定。

こんな方におすすめ

多様なつくり手との創作、
多様な鑑賞者に作品を届けることに興味のある方
劇場や文化施設の職員、パフォーミングアーツの企画制作者、アーティストなど

※料金等の各プログラムの詳細は内面をご覧ください。



STAGE for ALLは「オンライン講座」と「ワークショップ講座」を通じて、「障害と創作や鑑賞の場づくり」について考えながら実践する企画・制作者のための連続講座です。

オンライン講座	全4回のパフォーミングアーツにおける障害と創作・表現・鑑賞環境について考えるトークシリーズ	※アーカイブ動画配信は実施いたしませんのであらかじめご了承ください。 ※資料を画面共有する場合がございますので、タブレット端末やPCなど文字の読みやすいデバイスを使用してください。
場所：オンライン (Zoom)	アクセシビリティ：手話通訳・文字支援	
受講料：通し券：1,500円 / 1回券 500円		

9/10(水) 19:00~21:00	劇場・場のアクセシビリティとは ～Modu Art Theaterの事例～	Modu(モドゥ)とは、韓国語で「みんなの」という意味。障害のある人もない人も、“共に楽しめる劇場”を目指してつくられたModu Art Theaterは、バリアフリー対応だけでなく、表現のアクセシビリティを実現する最先端の取り組みで注目を集めています。今回はその事例を通して、劇場や舞台芸術のこれからのあり方を考えます。
 登壇 オ・セヒョン 韓国障害人文化芸術院 劇場運営部 部長	 聞き手 篠田 栞 株式会社 precog	 聞き手 田澤瑞季 株式会社 precog

9/18(木) 19:00~21:00	精神障害と創作 ～障害のある人との創作活動の現場～	精神障害や発達障害など、「見えづらい障害」は年々増加しています。演劇など舞台の現場でも、そうした障害のある人との創作や協働の取り組みが広がってきました。福祉施設との共同事業や当事者との創作実践を行ってきた実践者たちを招き、ケアと表現の視点や文化芸術からのアプローチを考えます。
 登壇 中村麻美 OUTBACKアクトースクール校長 演劇プラクティショナー	 登壇 栗原和美 塚本さやか 特定非営利活動法人東京ソテリア	 聞き手 土門 蘭 文筆家

9/26(金) 19:00~21:00	ステージの手話通訳とはなにか ～表現と鑑賞のあいだで～	2025年11月、東京でデフリンピックが開催され、手話やろう文化への注目が益々高まっていますが、一方で、舞台手話通訳の国内の実践は多くはありません。この講座では数少ない実践者を招き、演劇やコンサートにおける手話や舞台表現をろう者に届けるための視点について学びます。
 登壇 江副悟史 株式会社エンタメロード 代表取締役	 登壇 田中結夏 舞台手話通訳者、 手話通訳士、俳優、保育士	 登壇 長谷川恵美理 コンサート手話通訳・プログラムマネジメント

10/3(金) 19:00~21:00	舞台芸術のアクセシビリティを考える大会議 ～たのしむ人と届ける人の対話～	さまざまな観客がともに、それぞれに、舞台を楽しめるような環境はどうすればデザインできるでしょうか？舞台芸術の鑑賞者と企画・制作者が、鑑賞における壁(バリア)やモヤモヤについてともに共有し、アクセシビリティや鑑賞のデザインと舞台芸術のこれからについて対話します。
 登壇 山崎有紀子 アクセシビリティ アドバイザー	 登壇 関場理生 俳優・ナレーター	 登壇 王丸あすか 福岡県立ももち文化 センター事業責任者
きこえない演劇ファン。執筆、字幕クオリティチェック、当事者コミュニティ運営、アドボカシー活動等を通して、誰もが共に楽しむ舞台芸術の実現を目指している。	2歳で失明し、全盲となる。自ら舞台に立つ傍、視覚障害者向けの観劇サポートに携わる。また、ナレーターとして「ePARA Voice」や「みよみ」に所属。	2010年特定非営利活動法人アートマネジメントセンター福岡入職。2011年、ホームレス経験者との演劇活動をきっかけに、以降、障がいがある人との演劇活動などに取り組む。
 登壇 山川陸 アーティスト Transfield Studio 共同主宰		さまざまな形式により、集団で共に考える状況の設計に取り組む。Transfield Studioでツアー作品を発表、ほか会場構成やセグラフイーによる場所づくりなど。

対象	劇場や文化施設の職員、パフォーミングアーツの企画制作者、アーティストなど、多様なつくり手との創作、多様な鑑賞者に作品を届けることに興味のある方
----	---

ワークショップ講座	障害のある人との創作表現や鑑賞設計を体験し、対話する、パフォーミングアーツの実践者のための合宿形式の短期集中講座
場所：東京・奈良 (2会場での実施)	アクセシビリティ：手話通訳
※3月12日(木)2コース合同のオンライン成果発表会実施予定	※手話通訳が必要な場合、申し込み時にお知らせください。
受講料：一般：15,000円 / U29：12,000円	定員：各回 15名程度
※宿泊・交通費補助あり(上限30,000円)	※オンライン講座とのセット受講を推奨

コースA (東京)	身体や心をつなぐ翻訳と対話。 情報保障と鑑賞の先の対話を考える。	
見えない人、聞こえない人、ろう者を含む多言語話者。日本の舞台芸術の現場において、作品をたくさんの人に届けるためのアクセシビリティは、十分であるとはいえません。バリアフリー字幕や音声ガイド、手話通訳、そのほか、劇場に足を運んでもらうためのさまざまな工夫について知り、実践者の声を聞き、アクセシビリティを前提とした社会のあり方や、多様な人々が共に表現を楽しむための環境・手法について、受講生と共に考えます。	ゲスト 平塚千穂子(CINEMA Chupki TABATA) 彩木 香里(ものがたりグループ☆ボランの会) 額田大志(作曲家・演出家・劇作家) Sasa-Marie(Sign Poet(手話による「てことば」で詩を紡ぐ人)、音楽アクセシビリティ研究者)	
2026/1/24(土)-25(日) 会場：CINEMA Chupki TABATA ほか (東京都北区東田端2丁目8-4)		

コースB (奈良)	重度の心身障害のある人と創作すること、 日常とケアのあわいの表現。	
奈良県にあるたんぼぼの家で演劇の活動をしているHANA PLAY。障害のある演劇メンバーとディレクターの佐藤拓道さん、スタッフのみなさんとの創作の現場におじゃまし、重度の障害のあるメンバーとの創作活動を体験します。福祉施設の日常の中からのようにしてユニークな作品が生まれるのか、それぞれのメンバーの「表現」がどのように演劇として紡がれていくのか、普段は創作活動に直接関わらない企画者・制作者の方にも体験していただきたい講座です。	ゲスト 佐藤拓道 (〈たんぼぼの家アートセンターHANA〉副施設長) 森田かずよ(ダンスカンパニーMi-Mi-Bi) 福角幸子(ダンスカンパニーMi-Mi-Bi) も(ダンスカンパニーMi-Mi-Bi)	
2026/2/21(土)-22(日) 会場：たんぼぼの家アートセンターHANA (奈良県奈良市六条西3-25-4)		

ワークショップ 講座受講者 限定！	特別視察 プログラム	アクセシビリティコーディネーターとともに巡る、 国際芸術祭「あいち2025」の演目のアクセシビリティ	 あいち2025 国際芸術祭 Aichi Triennale 2025: A Time Between Ashes and Roses 国際芸術祭「あいち」 https://aichitriennale.jp/ 2010年から3年ごとに開催される「あいち」の国際芸術祭は、国内最大規模の国際芸術祭の一つであり、国内外から多数のアーティストが参加。愛知芸術文化センターのほか、県内の都市のまちなかを会場として広域に展開している。現代美術を基軸に、パフォーミングアーツ、ラーニング・プログラムなど、ジャンルを横断し、アートの多様性を「あいち」から発信する。
「ワークショップ 研修講座」参加者のうち希望者に対し、国際芸術祭「あいち2025」のパフォーミングアーツ部門の鑑賞サポート付き公演の視察研修を実施します。「あいち2025」のパフォーミングアーツプログラムでは、リラクスパフォーマンスの回を導入するなど、アクセシブルな舞台芸術プログラムの提供を目指しています。会期中のアクセシビリティ・鑑賞サポート付き公演の視察ツアーを行うことで受講者にリアリティをもって文化芸術のアクセシビリティを体感いただきます。	2025/10/13(月・祝) 会場：愛知県芸術劇場 小ホール(B1F) ※実施は12:00～16:15頃の予定です。詳細は参加者にご案内いたします。 ※15:00開演の公演チケットを事務局が購入済みです。チケットは受講料に含まれます。	視察作品： オル太「Eternal Labor(エターナル・レイバー)」	